

災害関係者の経験から把握した復興状況の構図化に関する考察

正会員 ○川内英樹*
同 徳田光弘**
同 友清貴和***

豪雨災害 災害関係者 被災経験
復興キーワード 被害軽減 早期復興

1. はじめに

災害関係者^{註1}は、復興過程において随時様々な課題に直面し、その被災経験から復興のノウハウを獲得している。そこで、今後頻発し被害の甚大化が予測される豪雨災害において、災害関係者が被災経験より得た復興の課題とノウハウを被害軽減・早期復興の知見として蓄積し、その体系化を目指す。本論では、災害関係者の被災経験から得られる情報より、復興へ向けた様々な取り組みや、その所々で災害関係者が発見する課題と、その要因の関係性を明らかにする。

2. 研究対象と方法

2006年鹿児島県北部豪雨災害と2007年秋田県豪雨における災害関係者を研究対象とし、その中でも特に被害が甚大であった旧宮之城町(現さつま町)と旧森吉町(現北秋田市)を中心する(表1)。

災害関係者へのヒヤリングを実施することで復興過程における災害関係者の動向を把握し、得られた復興経験の情報より復興キーワード^{註2}を抽出する。なお、補足として、災害関連資料、新聞記事より災害関係者の動向を抑える。抽出した復興キーワードをKJ法により整理することで、復興過程の流れと抽出した復興キーワード間のつながりを構図化する。

3. 復興状況と復興キーワードの関係性

図1は、復興過程で関係性を持つ復興キーワード同士をリンクさせることで、豪雨発生時より様々な復興キーワードが関係し合いながら進んでいく有様を示すものである。復興キーワードは災害被災者の属性が強いほど図左へ、災害対応者の属性が強いほど図右へ分けられる。また復興過程の流れは大きく3時期(避難対応期、復興初動機、復興期)に分けている。

今回抽出した164個の復興キーワードは、全て他の

表1. 調査対象の概要

災害名	鹿児島県北部豪雨災害	秋田豪雨
災害発生時期	2006年7月	2007年9月
過去の浸水被害経験	1972年7月	1972年7月
一級河川の氾濫	川内川	阿仁川
ダム放流	鶴田ダム放流	森吉川ダム放流
調査対象地	旧宮之城町	旧森吉町
調査期間	2006年7月～2008年8月	2007年9月～2008年8月

キーワードとつながりを持ち、避難対応期から復興期に至るまで、復興キーワード間のつながりが大きく途切れることは全体的に見られないため、復興過程で発生する全ての復興キーワードは、それぞれ互いに影響し合う関係性であるといえる。

また、他の復興キーワードと多くのつながりを持つことで、つながりの結節点となるキーワードが見られる。それら結節点の中でも、「避難意識と避難」、「災害対応と災害対応体制」、「被災生活と清掃作業」、「生活再建と生活支援」、「防災まちづくりと防災力の低下」は8個以上の復興キーワードとつながりを持ち、それぞれも互いにリンクしている。そのためこれらは、復興へ向けた様々な取り組みや、その所々で災害関係者が発見する課題と非常に多くの関わりを持ち、影響し合う復興キーワードであるといえる。

4. おわりに

本論では、災害関係者の被災経験から抽出した復興キーワードを用いて、復興過程の流れと復興キーワード間のつながりを構図化した。今後は抽出した復興キーワードの属性とキーワード間におけるつながりの性質について分析を進める。そして、災害関係者の被災経験を基に、復興過程に発見された課題と、そこから得られた復興のノウハウを構図化する。

なお、本論は(財)国土技術研究センター研究開発助成(助成番号:08007号、主査:徳田光弘)と、科学研究費補助金・若手B(課題番号:20760414、主査:徳田光弘)を得て実施した研究成果の一部である。

註

- 1) 災害関係者とは災害被災者+災害対応者を示す。
- 2) 復興キーワードとは、ヒヤリング調査結果より得た災害関係者の経験を包括的に含む単語を示す。

参考文献

- 1) 川内英樹、徳田光弘、友清貴和：災害関係者の経験に基づく復興状況の構図化に関する考察、日本建築学会九州支部研究報告集、第48号・3、pp.213-216、2009.3
- 2) 徳田光弘、友清貴和、川内英樹：豪雨災害一年経過時点の被災商店主意識から捉える商売再建の実態と課題、日本建築学会九州支部研究報告、第47号、pp.137-140、2008.3
- 3) 川内英樹、徳田光弘、友清貴和：豪雨災害被災商店における商売再建の実態と課題 その1、日本建築学会学術講演梗概集、E-2、pp.561-562、2007.9
- 4) 川内英樹、徳田光弘、友清貴和：豪雨災害被災商店における商売再建の実態と課題 その2、日本建築学会学術講演梗概集、E-2、pp.563-564、2007.9

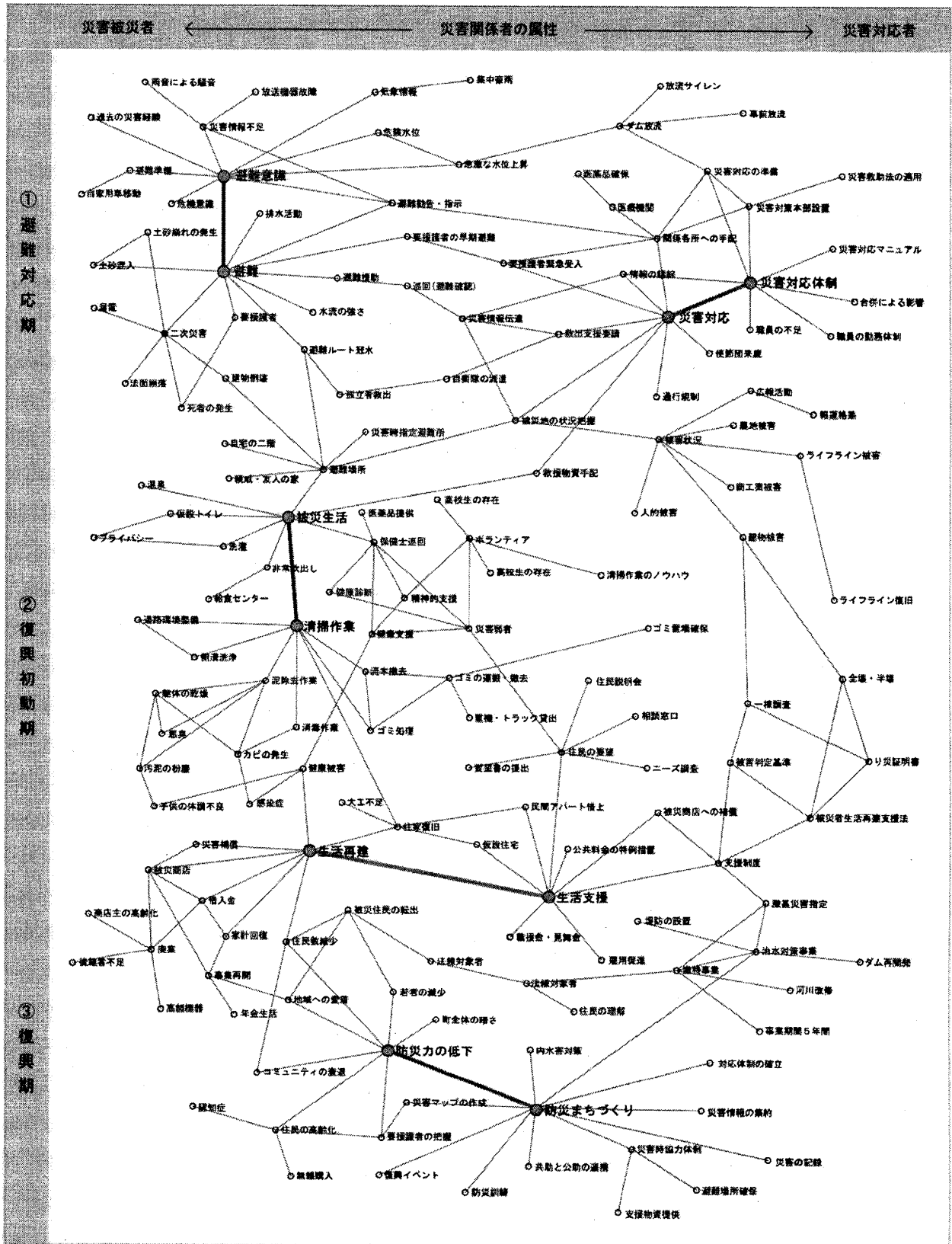


図1. 復興状況と復興キーワードの関係図

* 鹿児島大学 大学院博士課程

** 九州工業大学 准教授・博士 (芸術工学)

*** 鹿児島大学 教授・工博

* Graduate School, Dept. of Architecture, Kagoshima University

** Assoc. Prof. Kyushu, Dr. Institute of Technology, Dr. of Design

*** Prof., Kagoshima University, Dr. Eng